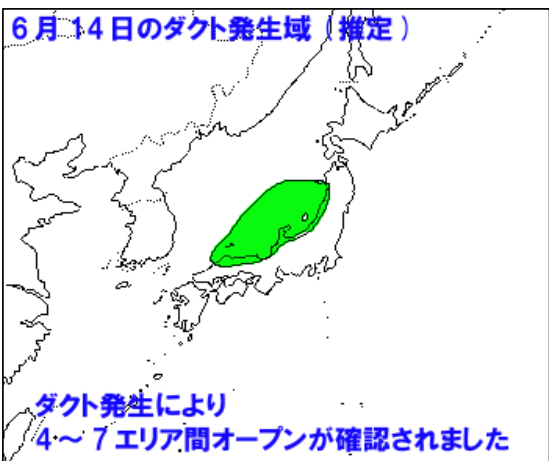


ダクト発生4~7エリア間オープン情報

2006年 6月14日 JG0TEV 中村

13日から14日にかけて日本付近は高気圧に覆われ、14日には4~7エリア間のオープンが確認されました。



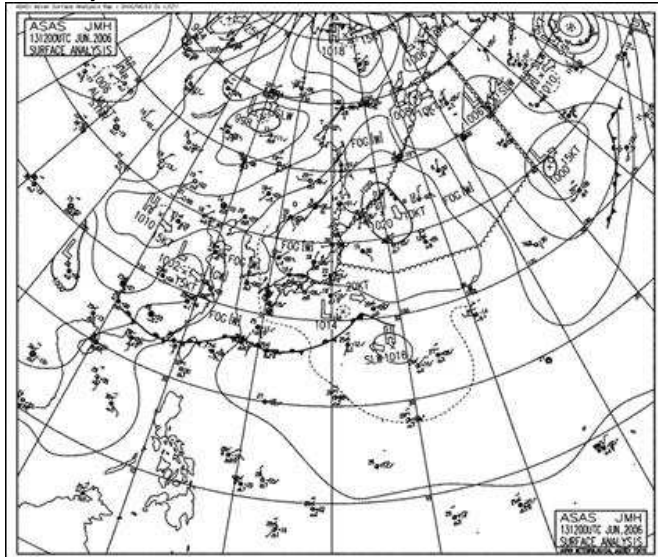
ダクト発生による4~7エリア間オープンが確認された。
 09:28 JR4MDA(鳥取県米子市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59
 09:36 JR4MDA(鳥取県米子市) -J071ZD(秋田県にかほ市) RS41-53
 *J071ZD ハンデ IVX-5 5W
 21:15 JEOETN(新潟県三条市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59
 21:21 JEOJJR(新潟県糸魚川市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS51-59
 22:00 JR9UVB(石川県七尾市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS55-59
 22:02 JHOINE(新潟県新潟市) -J071ZC(秋田県にかほ市) RS59-59

気象解析

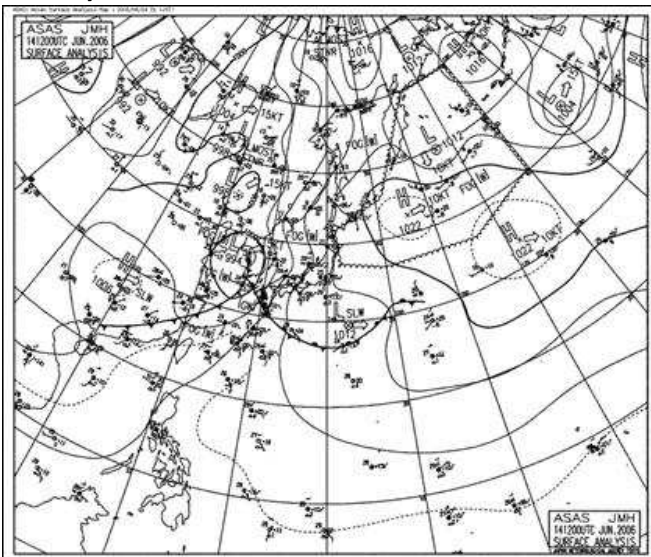
地上天気図から 13日から14日にかけての日本付近は本州の東海上に中心を持つ高気圧に覆われていたことがわかります。

地上天気図

13日21時



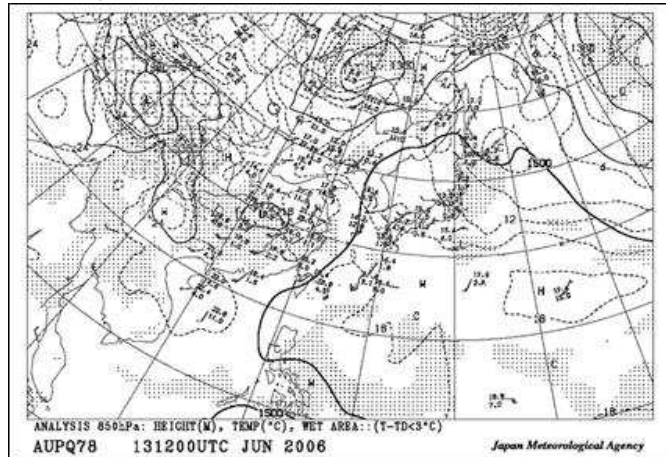
14日21時



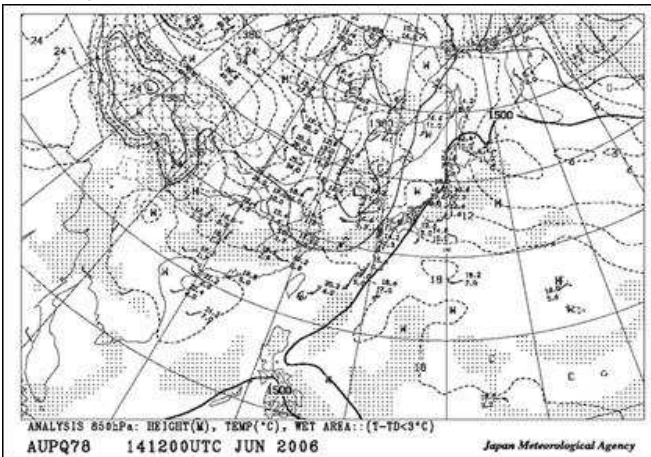
850hpa面解析図をみると、1,500mの等高線で囲まれた領域が日本付近を覆っていたことがわかります。

850hpa面高度・気温・湿数

13日21時



14日21時

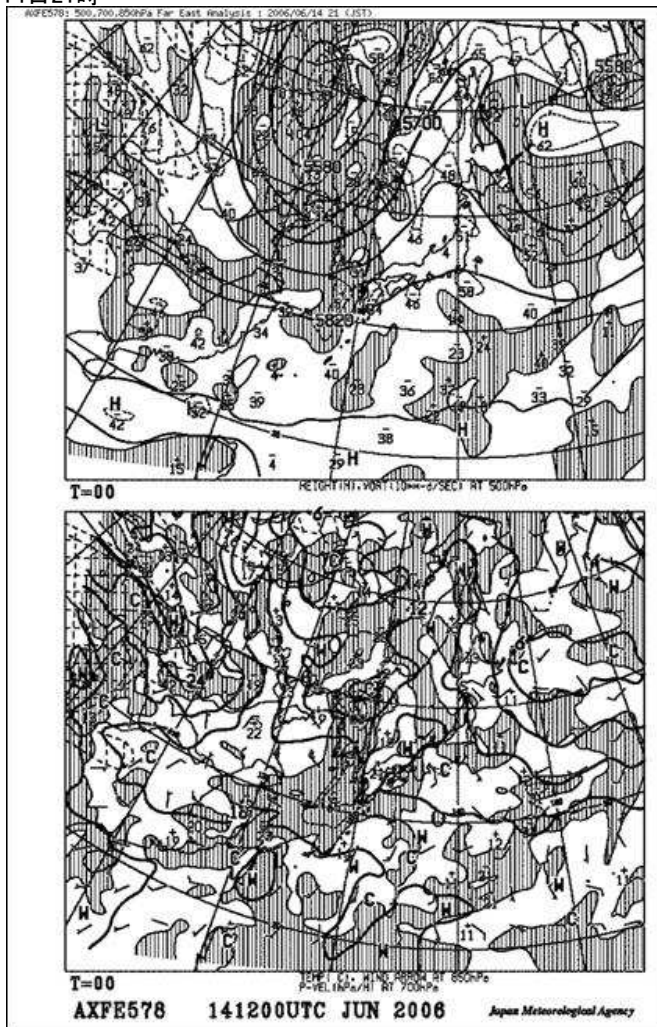
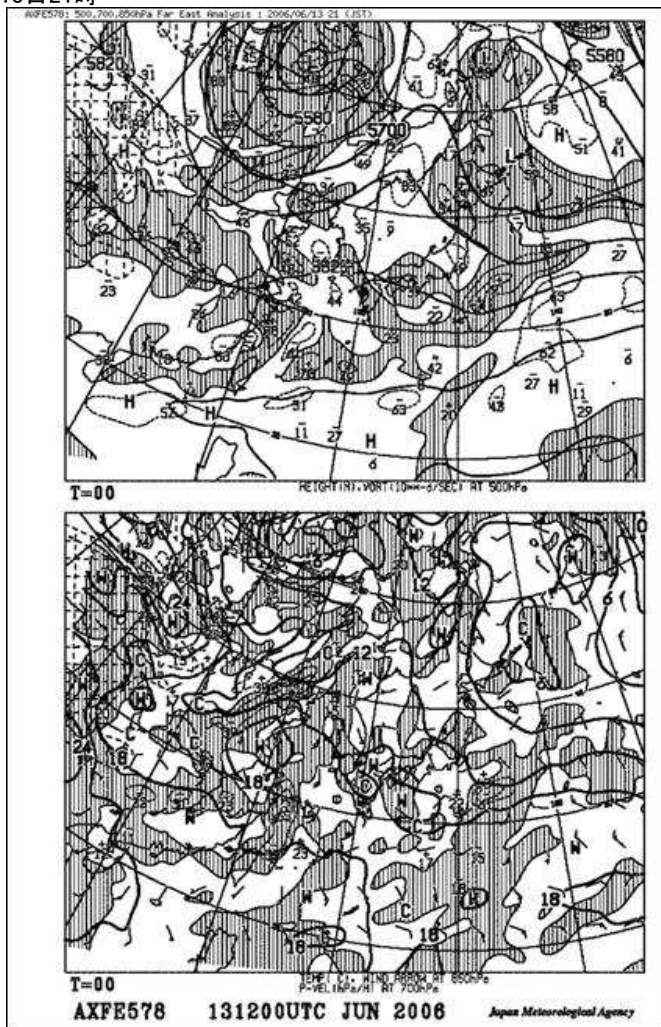


500hpa面の等高線の移り変わりを見ると、5,760mの等高線が日本海北部まで北上して、日本付近はリッジに伴う負渦度領域に覆われていたことがわかります。

700hpa面解析図では鉛直流は上昇流が目立ちますが、乾燥空気を伴った南よりの暖気移流によって空気全体があたたまつたことによって上昇流が発生しているもので、ダクト形成に不利な条件ではないものと考えます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
13日21時

14日21時



以上から、14日は東日本から北日本にかけては午前中までは高気圧に伴う負渦度領域に覆われていて、ダクト発生条件がそろいやすい状態であったと考えます。

【参考】赤外線雲画像

13日21時

14日21時

